

せる。幼児が玩具を振って遊ぶことから来た手まねか。

与える 掌を上向けた両手を重ねて 前にさし出す。

あたりまえ 右手の人差指と中指をかぎに曲げて、左手の掌の上を一二度叩く。これは「規則」「決っている」と云う手まねにもなる。

暖いぬか 「春」と同じ手まね。

新しい 五指の指頭を集めて、眼の前に向けてと同時に、ぱっと五指を開く。「眼醒めるばかりの意。「珍らしい」の手まねともなる。次に「美しい」の手まねをつけ加える。(五指の指頭を上にし、掌を内側にした手で、鼻頭の上をさっと横に撫る)

暑い 「夏」と同じ手まね。

熱い 湯に手を手を入れて、或は物に手を触れて、その熱さに驚いてその手で耳朶をつ

まむ表情と身振りのそま。

あつかましい 親指と人差指でつくった輪を頬に直角にあてがう(親指の方を頬につける)と同時に弾くように人差指の指頭を前へ離す。面の皮の厚いのを表わしたもの。

幹旋する 指頭を上にした右親指を口許にして、それを右へまた口許へと二度ばかり往復運動をさせる。両者へ口を利くと云うこと。「通訳」「紹介」と云う手まねにもなる。

天晴れ 腕前——感心。

集める・集まる 五指の指頭を上にし、掌を互いに向かい合うた両手。五指を少しまゝに屈めて、左右から接近させて、胸のちようど前で合わせる。両手の五指を人々或は多くの物として、一カ所に集まる様。「会」

「会合」と云う手まねにもなる。
あてはずれ 五指の指頭を上にし、掌を

内側にした左手の中指の指頭で額を突き上げる。「頭打ち」のこと。即ちあてはずれ。

あてはまる 指頭を右にさし、掌を上向けた左の人差指の上第一節の上に指頭を前方にさし掌を下向けた右手の人差指の第一節を直角に十形に組む。嵌木組工の二つの木切れがちょうどあてはまる様。

あてられる 五指をまるめに彎曲した手の指頭を額の上につける。夫婦または恋人同志の仲のよいところを見せつけられて、「ダァー」と云って額に手をやるあれ。

後あとで 後から 事、動作の完了——未来。

右の掌を左の掌の上へ叩き降ろす。動作などが完了したこと。次に「未来」の手まね（右の掌を前へ押し出す）

穴 親指と人差指で輪（穴）をつくり（他の三指は伸ばしたままでよし）、その輪の中を口で吹く。穴の中のうつろさを見せる。

侮あはれる 崇めるとは反対に、指頭を上になした左手の親指を右手の掌で下へ圧えつける。

兄 肉親を意味する前提の手まね（「父母」の項を見よ）があつて、男性を表わす中指を稍々高目に（父母の場合ほど高くない）さし上げる。

兄嫁 兄—妻。兄（右の中指）に左手の中指を添わせる。

姉 兄の場合と同じ要領。肉親の手まねがあつて、女性を表わす薬指を稍々高目にする。

姉婿 姉—夫。「兄嫁」の要領。

暴あはれる 悪るさ——粗暴な動作。「悪るさ」の手まねをして、粗暴な動作、即ち両腕の肘を左右に張って、両手を握り拳にして、交互に前へつき出しては手前へ引く運動。

危あやない 五指を少し彎曲させてその指頭を胸の上に置く。この時、心持ち少し胸を屈め